



# 羅臼町幼小中高一貫教育 学習指導法研究会

## アフタースクール

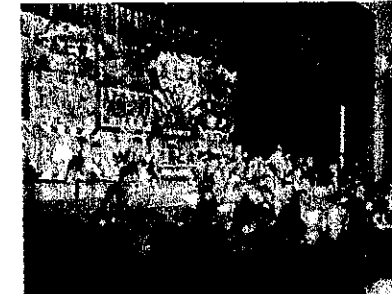
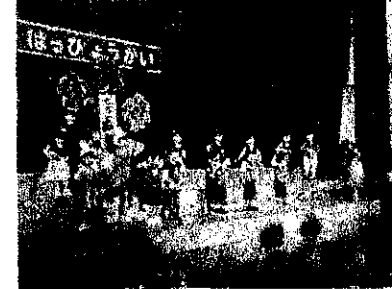
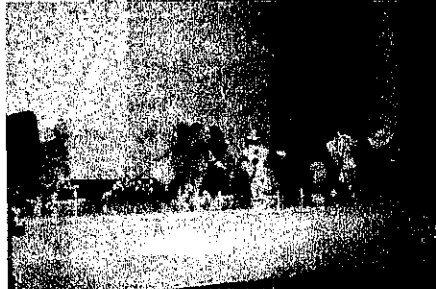
今年度のアフタースクールが11月10日(土)/11日(日)の2日間にわたって実施されました。(第1回目のアフタースクールは「北海道胆振東部地震」のため中止になってしまいました。)教育大学釧路校の学生さん18人が、3年生以上の3学級に分かれ、羅臼小学校と春松小学校の子供たちに、国語、算数、社会、理科、外国語活動の教科を楽しくわかりやすく教えてくれました。

### 実施授業

- |     |                      |  |
|-----|----------------------|--|
| 3年生 | 国語<br>算数<br>社会<br>英語 | 漢字(木へん、魚へん)<br>植木算(文章題)、少数の足し算<br>需要と供給<br>題材~好きなことゲーム                       |
| 4年生 | 国語<br>算数<br>理科<br>英語 | 物語を作ろう、慣用句<br>1億より大きい数、割合<br>水の濾過実験<br>北海道と自分の地域                             |
| 5年生 | 国語<br>算数<br>理科<br>英語 | 句読点、漢字<br>面積、約数・数字遊び<br>題材~空気・天気   |
| 6年生 | 国語<br>算数<br>理科<br>英語 | 題材~I can~<br>川柳、オノマトペ(擬音語)<br>割合、拡大図と縮図<br>世界遺産について知ろう<br>題材~日本語と英語の音の違いを知ろう |

## 幼稚園発表会

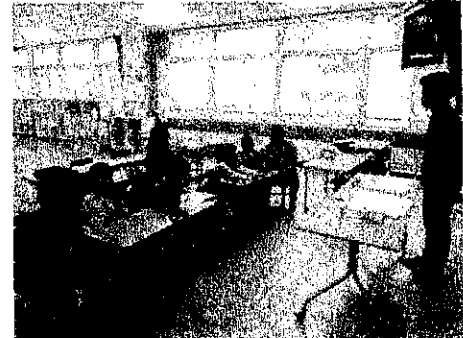
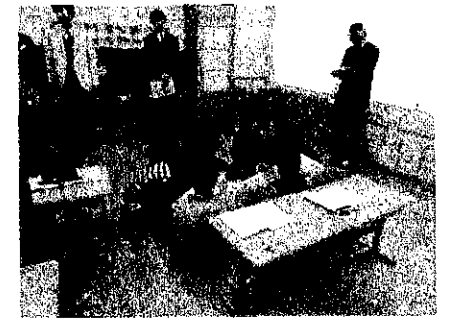
11月18日(日)に春松幼稚園、12月2日(日)に羅臼幼稚園の発表会がありました。両幼稚園とも子供たちの頑張りがとても素晴らしいと感じました。また、3歳児、4歳児、5歳児では、年齢によるその成長の違いがとてもよく出ており、かわいらしい3歳児、ちょっとお兄さんお姉さんの4歳児、しっかりとした5歳児でした。春松幼稚園では、知床いぶき樽を地域の方に指導してもらい園児らしい力強い演奏を見せてくれました。また、よさこいはそれぞれの幼稚園で取り組んでいました。踊りに違いもありとてもかっこよい5歳児でした。演奏が終わると、両幼稚園ともアンコールがかかり、見応えがありました。



春松幼稚園 ↑

羅臼幼稚園 ↑

11月14日(水)午後春松小学校を会場に、羅臼町幼小中高一貫教育学習指導法研究会が開催されました。春松小学校では、2年生を除く1年生、3年生、4年生、5年生、6年生と特別支援学級で公開授業が行われました。町内からは、両幼稚園、羅臼小学校、知床未来中学校、羅臼高校から、60名を超える先生方が集まり授業を参観しました。春松小学校では、研究主題を「自ら学び、進んで表現する子供の育成」とし、サブテーマに「伝え合う力を培う国語科の指導を通して」と設定して国語の授業を公開してくれました。子供たちには特に、「表現力」を身につけてもらいたいということで4月から授業に取り組んできました。今は、主体的・対話的で深い学びの授業を目指しています。春松小学校もこの授業を実践して今回の公開が行われていました。どの学年も熱心に取り組む子供たちの姿はとても素晴らしいと思いました。授業公開の後は、体育館で開会式、授業に対する研究協議が低学年、中学年、高学年の部会に分かれて行われました。それぞれの部会では授業について熱心に研究協議が行われていました。



# プログラミング教育研修会 in 羅臼

平成32年度から小学校では新学習指導要領が本格実施されます。これを受けて、先生方も子供たちに指導する前に研修会を実施し、プログラミング教育とはどのようなものか講師を招き勉強会をしました。

講師の方は、石狩市の全小学校で「プログラミング教育出前授業」を実施している本社が大阪にあるさくらインターネットの朝倉恵さんにお願しました。

羅臼小学校のコンピューター教室において幼小中高の先生方を対象に行いました。

プログラミング教育とはどのようなものかその考え方やその活用の仕方や小学校でプログラミング教育を実施する理由などを学びました。

最後に無料ソフトを使用して簡単なプログラミングの実際をインターネットにつながっているパソコンを使用して行いました。



# 羅臼高校公開研究会

11月19日(月)午後羅臼高校の公開研究会が開催されました。1年生の数学と3年生の生物の授業が公開されました。生徒たち一人一人にわかりやすい授業が組まれていました。また、3年生では、一人一人がしっかりと自分の意見を持ち発表していました。3年間での成長に感心しました。



3年生 →



← 1年生

# 合併浄化槽の働きを学ぶ

10月26日(金)に春松小学校の4年生が、合併浄化槽の働きについて学びました。

天気も良く外での学習も快適に行われました。教えてくれたのは、札幌から来てくれた講師の方と羅臼清掃社の方々でした。

教室で地球上での水の動きや汚れた水がきれいになる仕組みなどを学びました。

その後、外に出て、春松小学校の大きな合併浄化槽の蓋を開けて中の様子を見せてもらいました。

普段見ることができない合併浄化槽の中を初めて見る事ができました。はじめ学校中から流れてきた汚れた水(糞尿含む)が徐々に水分が多くなり、最後には、きれいな水となって出て行く様子を見る事ができました。浄化槽に入ってきたときは塊だったものが、中にいる微生物の働きにより分解されて最後には水となるということを見せてもらいました。

また、個人の住宅の小さな浄化槽も見せていただきました。さらに、合併浄化槽の中が見える大きな模型もを見せてもらいました。

最後に、浄化された水を少しとり教室に持ち帰り水の中にいる微生物を顕微鏡で見せてもらいました。

微生物が顕微鏡の下で動いている様子を見る事ができ、これも大変な驚きでした。

合併浄化槽を教材として扱った授業は、羅臼町では初めてのことでないかと思えます。このような仕事に携わらないとまず合併浄化槽の中は見ることができないのではないかと思えます。

今回子供たちは、大変貴重な経験をしたのではないかと思えます。



教室で



浄化槽の仕組み



浄化槽の中を上から見ました



顕微鏡で見えています。

# 羅臼における教育の魅力づくり講演会 「教育の魅力化は、地域の活性化につながる」

12月1日(土)羅臼小学校の多目的ホールを会場に、講演会が開催されました。

講師は、北陸大学経済経営学部教授で株式会社プリマペンギン代表取締役「藤岡慎二」氏です。藤岡氏は2009年から島根県海士町で島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクトに参加しました。廃校寸前の高校をよみがえらせた人です。現在は、北海道から沖縄まで20以上のプロジェクトを展開しています。

12月1日(土)当日は、たくさんの方々に聞いてほしかったのですが、30名以上いました。

藤岡氏は、様々な地域の実例なども紹介してくれました。ある町では、学校がなくなり人口が半減したという例もあったようです。

今の若い人たちが、移住したくなる大事な観点として「教育、医療、福祉、日々の生活」の4点だということでした。

ポイントとして、教育の魅力化は、子育て世代のUターンなど移住定住政策の一環も。故に首長部局、教育委員会、地域の総掛かりの施策が重要。

「存続」を目指す存続しない。生徒が「行きたい」、保護者が「行かせたい」と思い地域も「活かしたい」と思う『魅力』づくりを目指す。地域で求められている人材は、地域で生業・事業・産業を創り出せる人材(地域起業家的人材)。仕事がないから帰れないではなく『仕事を創りに帰りたい』と思う人材を育てる必要がある。

## 高校魅力化の3本柱

